

資料4 セルフチェックの仕組みについて

- **セルフチェックの仕組みを検討** (検討開始済み、12月案、3月まとめ)
 - ・セルフチェックの仕組みの検討
 - 論点例：自己評価の実施主体、自己評価が効果的である範囲の特定（対象）、チェック項目、判定基準、自己評価の運用の仕組み、自己評価結果を公にする主体や方法
 - ・必要文書（評価実施要領、評価基準に応じたチェックシート等）の作成
 - ・セルフチェックの仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
 - 論点例：自己評価の実施可能性、実施方法、実施項目等
 - ・ヒアリング結果の反映

- **第三者評価の論点について検討**（10月検討開始、12月案、3月まとめ）
 - ・第三者評価の仕組みの検討
 - 論点例：第三者評価の実施主体・体制、実施対象、費用分担、評価基準
 - ・第三者評価の仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
 - 論点例：第三者評価の内容、実施可能性等
 - ・第三者評価の仕組みの検討のまとめ
 - 論点例：第三者評価を実現するに当たって必要な体制・方法、実現に向けた課題
基本的な考え方、ステークホルダーに想定される影響、評価機関の体制・能力、設置・運用コスト

- **接続テスト環境のシステム及び運用体制について検討**（10月検討開始、12月案、3月まとめ）
 - ・既存の仕組みの分析・整理
 - 例：デジタル庁の実証調査研究の成果、1EdTechコンフォーマンステスト、MEXCBTステージング環境
 - ・求められるシステム・運用体制の検討
 - 論点例：必要と考えられる試験項目、設置費用と実現可能性、運用体制とコスト

「適合性評価の仕組みに関する検討」の状況報告

■ セルフチェックの仕組みを検討

(検討開始済み、12月案、3月まとめ)

- ・セルフチェックの仕組みの検討
論点例：自己評価の実施主体、自己評価が効果的である範囲の特定（対象）、チェック項目、判定基準、自己評価の運用の仕組み、自己評価結果を公にする主体や方法
- ・必要文書（評価実施要領、評価基準に応じたチェックシート等）の作成
- ・セルフチェックの仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
論点例：自己評価の実施可能性、実施方法、実施項目等
- ・ヒアリング結果の反映

・ 令和8年度 実施要領のご報告

- ・ 学習eポータル事業者へのヒアリングの実施結果
- ・ 必要文書の整備状況
- ・ 実施プロセス・スケジュール

・ 実施に向けて配慮すべき点等についてご意見を伺いたい

■ 第三者評価の論点について検討

(10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・第三者評価の仕組みの検討
論点例：第三者評価の実施主体・体制、実施対象、費用分担、評価基準
- ・第三者評価の仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
論点例：第三者評価の内容、実施可能性等
- ・第三者評価の仕組みの検討のまとめ
論点例：第三者評価を実現するに当たって必要な体制・方法、実現に向けた課題
基本的な考え方、ステークホルダーに想定される影響、評価機関の体制・能力、設置・運用コスト

第2回専門家会議にて 接続テストを優先させて検討を説明

- ・ まずは接続テストを優先して検討
- ・ 接続テストの結果の内容を正しく伝える仕組みとして、今後実際の運用に即し検討

■ 接続テスト環境のシステム及び運用体制について検討

(10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・既存の仕組みの分析・整理
例：デジタル庁の実証調査研究の成果、1EdTechコンフォーマンステスト、MEXCBTステージング環境
- ・求められるシステム・運用体制の検討
論点例：必要と考えられる試験項目、設置費用と実現可能性、運用体制とコスト

・ 接続テストの必要性と接続テストツールの構築の考え方

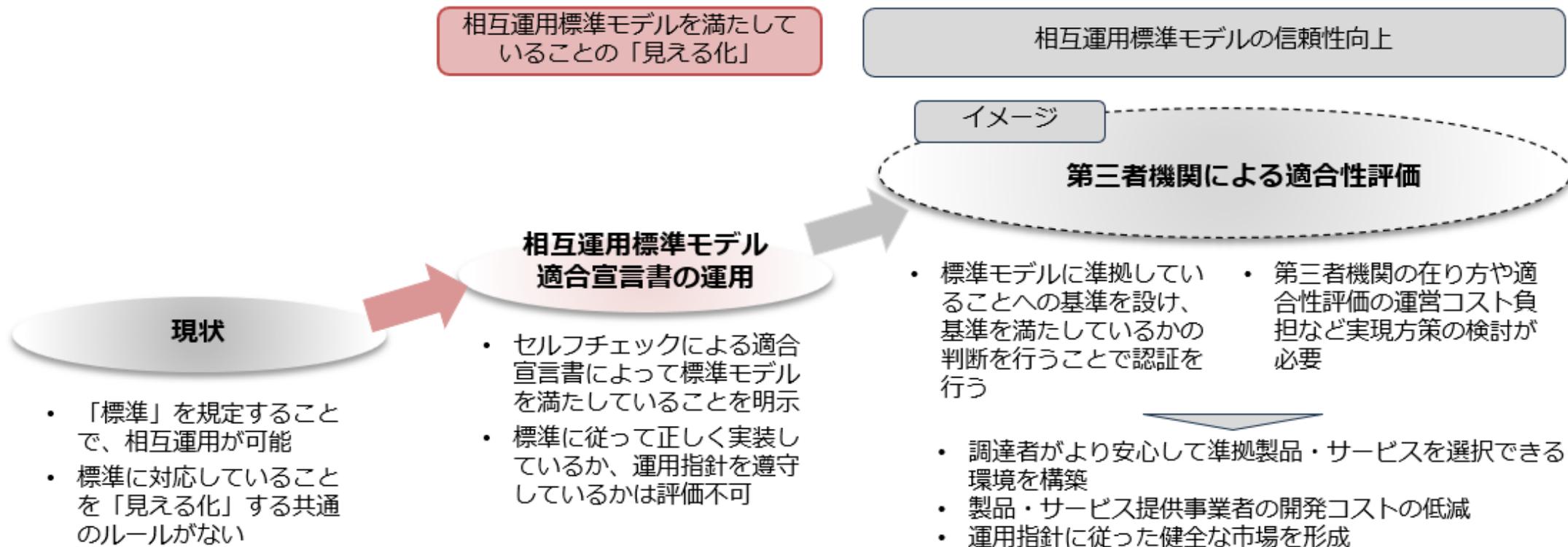
- ・ 接続テストにより事業者負担軽減を実現
- ・ 既存環境を活用しつつ、今後最小コストで有用な方法を検討

・ 進め方についてご意見うかがいたい

セルフチェックに関する昨年度(令和6年度)までの検討

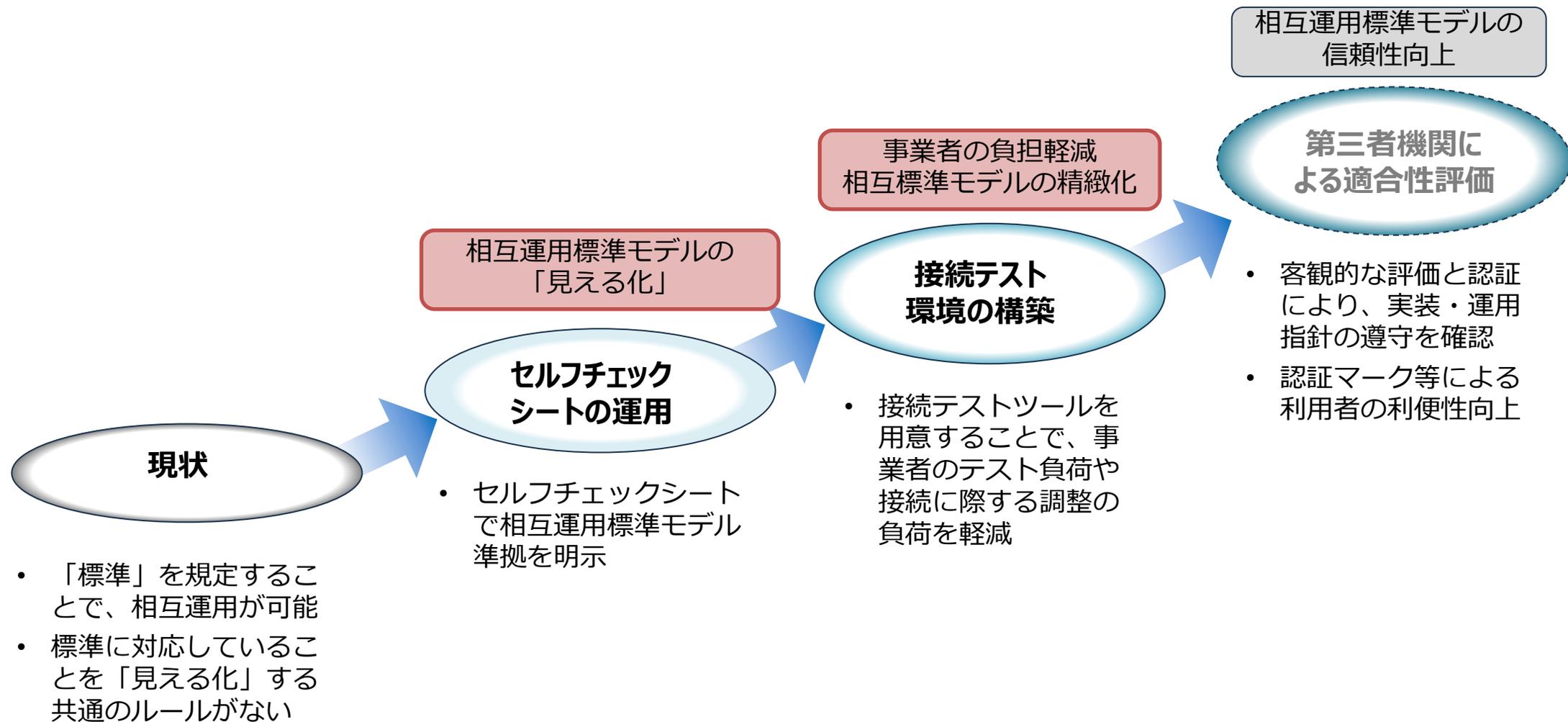
昨年度は適合性評価のファーストステップとして、相互運用標準モデルを満たしていることを各事業者が自らチェック・公表することで「見える化」する、セルフチェックの仕組みを検討した

令和6年度専門会議 適合性評価のステップ



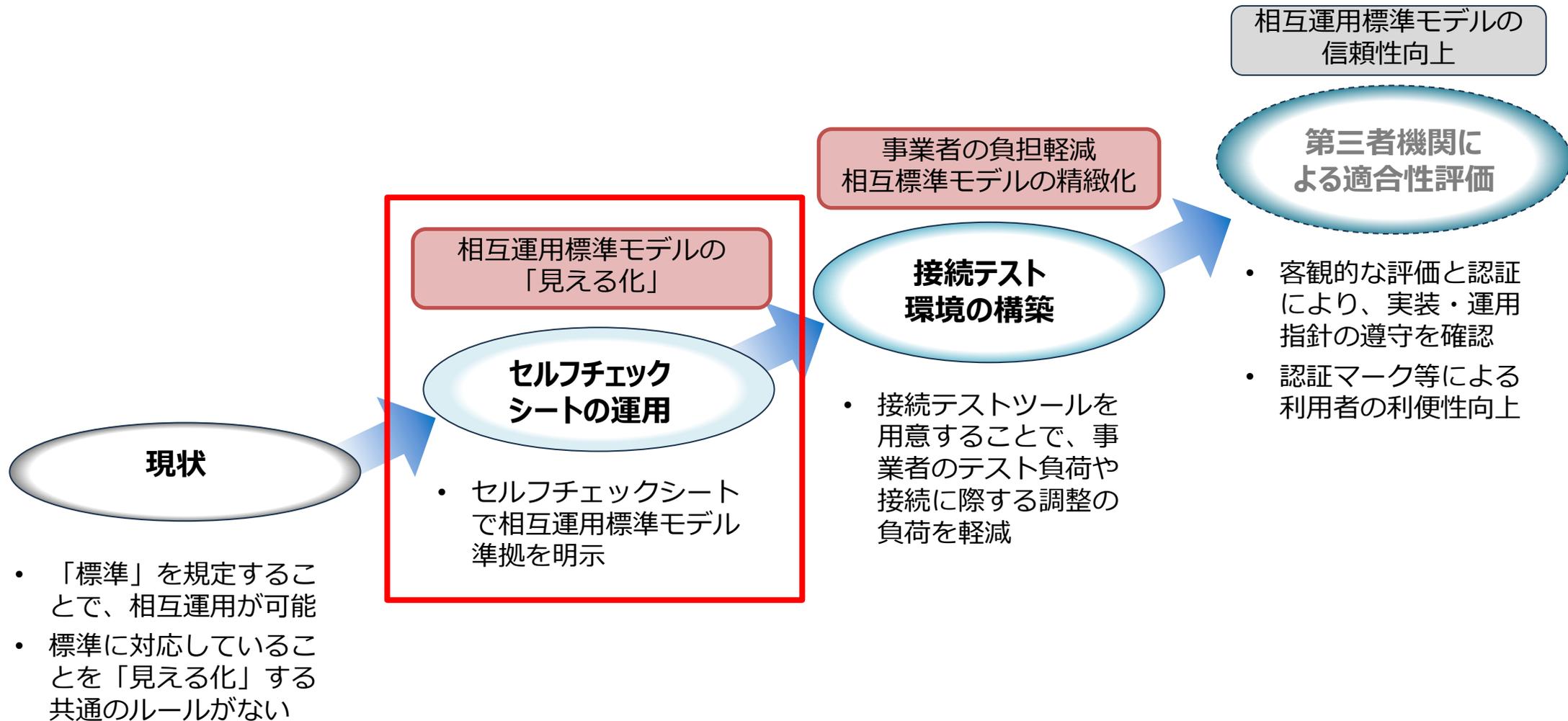
令和7年度 適合性評価の検討ステップ

今年度はセルフチェック実施の具体化に加え、次なるステップとして接続テストツールの構築を優先するとし、検討に着手。技術的な準拠を担保することで事業者のテスト・接続負荷を軽減し、標準モデルの速やかな社会実装を目指す



令和7年度 適合性評価の検討ステップ

今年度はセルフチェック実施の具体化に加え、次なるステップとして接続テストツールの構築を優先するとし、検討に着手。技術的な準拠を担保することで事業者のテスト・接続負荷を軽減し、標準モデルの速やかな社会実装を目指す



セルフチェックの実施～公表

学習eポータル事業者はセルフチェックのフォーマットに従ってチェックを実施。チェックしたフォーマットについてはデジタル庁の教育DXサービスマップに掲載することを検討中

セルフチェックの実施

セルフチェックの公表

技術仕様

適合宣言書 (学習eポータル)

製品・サービス名 ○○○○
 対象となる相互運用標準モデルのVer. 5.00
 本製品・サービスは相互運用標準モデルに従って実装しています

相互運用標準モデルに基づく基盤機能	相互運用標準モデルに従って実装
アカウント管理/ユーザー認証 (MUST)	✓
MEXCBTとの連携 (MUST)	✓
各種学習ツールとの連携 (MUST)	✓

運用指針

運用指針① ○○○○○○
 運用指針①を遵守します

運用指針② ○○○○○○
 運用指針②を遵守します

確認日 .
 企業・団体名 ○○○○
 連絡先 責任者 ○○○○

✓ 確認日、企業・団体名、
 問合せ先として連絡先・
 責任者を指名記載

- フォーマットに従ってチェックを実施し
 確認した日付や担当連絡先を記載

デジタル庁 教育DXサービスマップ



- サービスマップへの掲載は情報の集約・幅広い周知・記載情報の信頼性の向上の観点で有用と考える

記載したフォーマットをデジタル庁のサービスマップに掲載 (掲載方法は検討中)

セルフチェック ～ヒアリングの実施概要 の報告

事務局でセルフチェックの手引き、セルフチェックシートのフォーマット、教育DXサービスマップに掲載内容の素案を作成し、運用に向けて学習eポータル事業者7社にヒアリングを行った

日時	2026/2/6 - 2/13	
対象事業者	学習eポータル提供事業者 (7社)	
方法	資料配布／Google formで回答	
質問	セルフチェック運用のプロセス	貴社において、サービスマップの記載から公開(自社WEBサイト掲示およびサービスマップへのURL掲載)において運用上の課題があるか 標準モデル更新や、仕様更新があった際セルフチェックシートを更新・再公開する必要があるが、継続的に実施するにあたっての課題があるか
	各ドキュメントのわかりやすさ	参照する上で、不明瞭な点／もしくは改善案などがあるか
	運用に関する指針について 準拠可能か	運用に関する指針を準拠するにあたり、懸念があるか。 もしあれば、懸念点と理由を具体的に記載ください
	制度への所感	セルフチェック制度や、接続テスト環境の構築等に対する所感について、ご意見をお聞かせください
	その他ご意見	その他、ご意見がございましたら記載ください

セルフチェック ～ヒアリング結果 の報告(1/2)

6社から回答をいただいた主なコメントを整理した内容と、コメントに対しての回答／対応方針を下記に示す。なお、賛同意見、意見なしについては記載を割愛した

項目	主なコメントの概要	コメントに対しての回答／対応方針
セルフチェック運用のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> セルフチェック実施のタイミングは年度末・年度初め、全国学調などサービス提供側の運用負荷が高まる時期を避けてほしい リリーススケジュールの観点から数カ月余裕をみてほしい 標準モデルの更新やフォーマットの更新頻度が高いと継続実施に影響がでる 	<ul style="list-style-type: none"> 標準モデルのリリースタイミングや実装仕様に変化があった際は、セルフチェックの更新をお願いしたいが、タイミングは各社次第である 特に運用指針は、速やかに更新内容の確認と準拠の検討をお願いしたい 技術仕様については、新しい標準モデルがリリースされてから、各社の実装までは1年程度かかるのではと見立てている 標準モデルについては、標準として一定程度コンセンサスが取れたのちには、技術動向の変化に対応して更新という形にすることも含めて検討を行いたい。セルフチェックのフォーマットについては、標準の更新に対応して必要に応じて対応
各ドキュメントのわかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 条項を公的ページにおいて証明書を提示などより真正性の高い情報提示方法があるのでは より具体的に公平性・オープンにするための制約はいれられないか セルフチェックシートの間合せ先には氏名の記載は不要としたい(人事異動等での差し替え発生の予防) 相互運用標準モデルの過去バージョンも参照できるようにすべき セルフチェックは標準モデルの実装バージョンではなく、それぞれの項目に対して記載できることが望ましい サービスマップに「サービス同士の接続実績」が掲載されると、有用ではないか サービスマップには相互運用性の準拠については項目を割くべきではなく学校設置者や学校が知りたい、選択に資する情報を提示できるようにすべき 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の掲載の仕方や媒体等、時代のニーズに合わせた手法での実施や、公平性の観点での実施は今後のも継続して検討とする 氏名の記載を必須とせず、組織の役職等でも可とし、フォーマット・手引きを更新した ICT CONNECT 21のWEBページにて、過去の標準モデルを参照できるよう対処する 標準モデルのMUST部分についてそれぞれの項目でバージョンが異なる運用は想定しておらず、個別項目の必要性は低いと考える。なお、個別項目で留意点がある場合はサービスマップ記載いただきたい サービスマップの記載項目に関する意見については、担当であるデジタル庁に情報提供する 具体的な接続実績については、相互運用標準モデルの実装の項目そのものではないため、セルフチェックにそのまま記載をすることは適切ではないと考える。デジタル庁のサービスマップへの項目追加等について省庁間で検討してまいりたい

セルフチェック ～ヒアリング結果 の報告(2/2)

6社から回答をいただいた主なコメントを整理した内容と、コメントに対しての回答／対応方針を下記に示す。なお、賛同意見、意見なしについては記載を割愛した

項目	主なコメントの概要	コメントに対しての回答／対応方針
運用に関する指針について準拠可能か	<ul style="list-style-type: none"> なぜ国が特定の事業者のビジネスにのみ介入する権利があるのか、必要な説明がなされていない 学習eポータル事業者のみにビジネス上の制約をかけることは、公的機関として著しく公平性を欠く行為ではないか 「2. 運用指針に関連して引き続き検討が必要な事項」の記載項目の取り扱いが不明瞭で、準拠に対して解釈や対応の余地が広すぎる懸念あり 例えば、「2.2.1 学習eポータルの変更の際のデータの特定及び標準化」は、移行データの技術的な規定がないことが記載されているが、「1.2 データの取扱い（学習eポータルを変更する場合の扱いを含む）」の(v)vi)にはデータ移行に係る記述があり、事業者は対応方針を定められない このような項目は「指針」から除外し、それらの議論の経緯を別途報告書などにまとめるのが望ましいのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家会議での議論を踏まえるとともに、相互運用標準モデルについて事業者や自治体の理解を得る取り組みを引き続き実施したい 「1.2 データの取扱い（学習eポータルを変更する場合の扱いを含む）」の(v)、vi)に係る部分については、現行版において既に規定がある 「2.運用指針に関連して引き続き検討が必要な事項」を運用指針に追加する際には、専門家会議等において議論した上で対応を行う予定
制度への所感	<ul style="list-style-type: none"> 接続テスト環境の構築の仕組があった方が望ましい／適合性評価を接続テストで実施するのは負荷が高いのではないか 相互運用に関する標準であるため、学習eポータルにのみセルフチェックを実施しても意味がないのではないか 相互運用標準モデルの策定における合意形成において透明化が必要ではないか セルフチェック・接続テストも、各社の仕様変更が生じるたびに内容を更新する必要があり、運用コストは必ずしも小さくない。制度の運用に際しては、セルフチェックシート自体の公開や、接続テストへの合格自体が目的化してしまうような状況を生じさせない配慮が必要では 	<ul style="list-style-type: none"> 接続テストツール／適合性評価については今後の検討課題。負荷がかからない仕組みの構築を目指す まずはハブとなる学習eポータルを対象としたが、今後は他のコンポーネントも相互運用の観点で段階的に検討をすすめる 引続き専門家会議等も含め、透明性を保って進めるよう留意する 引続き専門家会議等も含め、透明性を保って進めるよう留意する

令和8年度 セルフチェックの実施要領 概要

令和8年度は学習eポータル事業者に、セルフチェックの手引きに従い、以下の構成について相互運用標準モデルに係るセルフチェックを実施していただく

運用の手引き

別添：参考資料2 参照

セルフチェックシート

別添：参考資料3 参照

技術仕様

- 相互運用標準モデルに準拠していることを✓で示す
- 実装している相互運用標準モデルのバージョンを記載

運用に関する指針

- 最新の相互運用標準モデルに記載の運用に関する指針を遵守する旨を✓で示す

サービスマップ

別添：参考資料4 参照

セルフチェックシートの掲載URL

- セルフチェックシートが公開されているWEBページのURLを掲載

相互運用標準モデルに関する項目

- 実装のバージョンや機能を掲載する項目の記載を推奨

項目	別添：参考資料4 参照	
法人名		
サービス名		
サービス概要	既存サービスマップ掲載項目	
サービス紹介サイトURL		
導入自治体数		
相互運用標準モデルに係る実装状況	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
セルフチェックシート掲載URL	別添：参考資料3 参照	
相互運用標準モデルに基づく項目	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
アカウント管理/ユーザー管理	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
MEXCBTの連携 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
各種学習ツールとの連携	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
授業支援システムとの連携	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
LRSとの連携 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
OSや各種学習ツールとのシングルサインオン (RECOMMEND)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
相互運用標準モデルに基づく(学習管理機能)	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
MEXCBTの利用 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
学習ツールとの連携 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
課題/スクリーン管理 (MAY)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
学習履歴管理 (MAY)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
チャットボット (MAY)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
相互運用標準モデルに基づく(教員支援機能)	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
児童生徒情報連携 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
テスト管理 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
テスト結果連携 (MUST)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
チャットボット (MAY)	自社のシステムで相互運用標準モデルを実装している場合は、実装しているバージョンを記載してください。実装していない場合は、実装しない旨を記載してください。	
その他	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
その他	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
動作環境 (クライアント側)	実装済みの機能については、相互運用標準モデルのバージョンを記載してください。	
OS	既存サービスマップ掲載項目	
ブラウザ		
ネットワーク		
その他必要ソフトウェア等		
セキュリティ	既存サービスマップ掲載項目	
サービス提供事業者のセキュリティ保証		

(補足) セルフチェックとサービスマップの関係

セルフチェックシートの公開URLはデジタル庁のサービスマップに掲載をお願いしたい。なお、セルフチェックとは別の取り組みとなるが、サービスマップに設ける相互運用標準モデルに係る項目についても、セルフチェックと齟齬がないよう記載いただきたい

サービスマップ 相互運用標準モデルに係る項目の抜粋

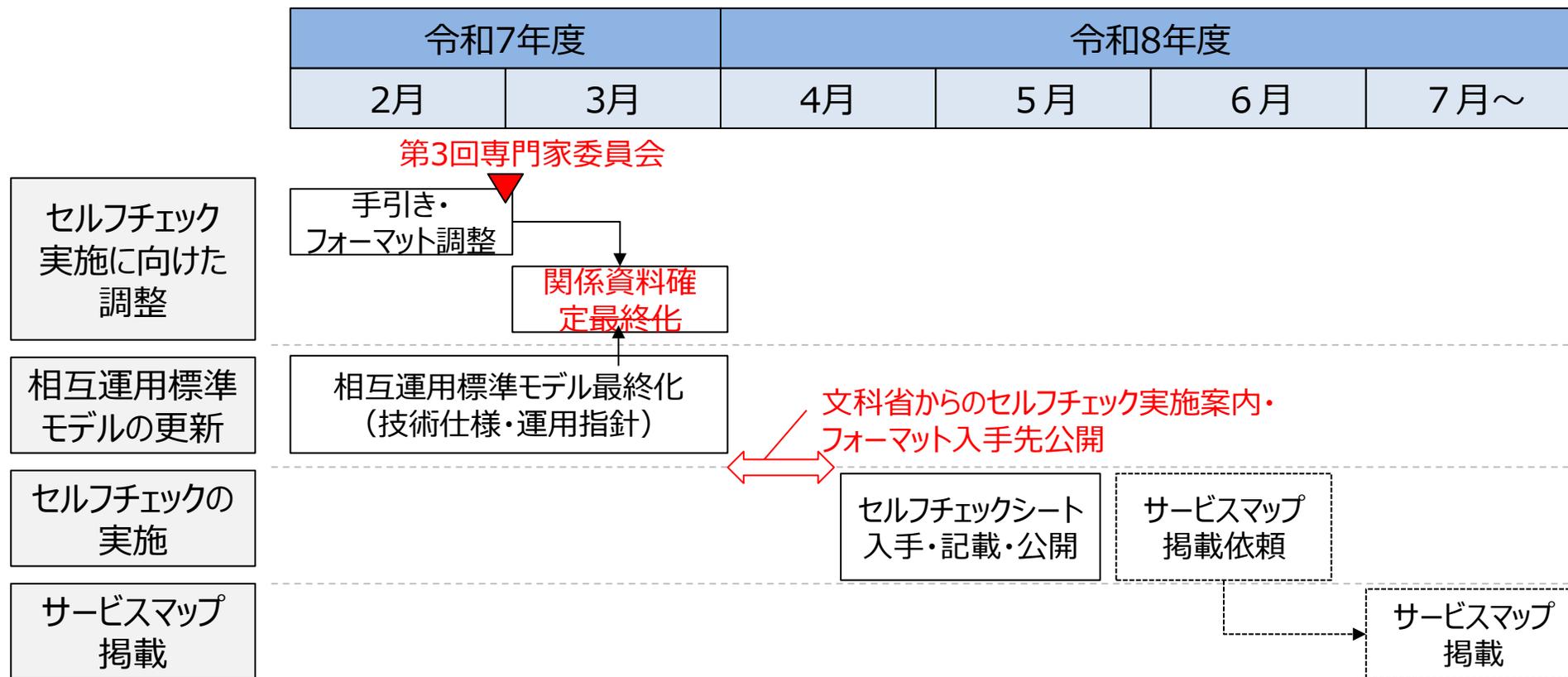
相互運用標準モデルに係る実装状況	
セルフチェックシート掲載URL	公開している場合
実装している相互運用標準モデルのバージョン	
相互運用標準モデルに基づく基盤機能	
アカウント管理/ユーザー認証 (MUST)	実装している場合は○を記す。
MEXCBTとの連携 (MUST)	実装している場合は○を記す。
各種学習ツールとの連携 (MUST)	実装している場合は○を記す。
テスト結果閲覧 (MUST)	実装している場合は○を記す。
ダッシュボード (MAY)	実装している場合は○を記す。
その他の機能・提供条件・サポート体制	
その他の機能	

デジタル庁が公開している教育DXサービスマップ（実証ベータ版）の学習eポータルページにおいてセルフチェックシートを公開しているWEBページのURLを記載する欄を用意
⇒幅広い周知の観点から当該WEBページのURLの掲載を推奨

相互運用標準モデルに係る項目として、実装している相互運用標準モデルのバージョンや、機能等に関する項目も設置
⇒セルフチェックとは別の取り組みだが、セルフチェックシートで宣言した内容と齟齬がないよう記載いただくことを推奨

セルフチェック実施のスケジュールイメージ

令和8年度に、最新の相互運用標準モデルがリリースされた後に、セルフチェックの運用開始を想定



※速やかな実施をお願いするが、各事業者のタイミングで実施

令和7年度 適合性評価の検討ステップ

今年度はセルフチェック実施の具体化に加え、次なるステップとして接続テストツールの構築を優先するとし、検討に着手。技術的な準拠を担保することで事業者のテスト・接続負荷を軽減し、標準モデルの速やかな社会実装を目指します

